

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（東京学芸大学・教職大学院）

授業科目名	こどものライフサポート
教員名（専門分野）	小林 正幸（教育臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目（小・中・高）
単位数・受講者数	2単位 ・ 7名
対象課程・対象学年	学部・修士・ <u>教職大学院</u> 2年生、現職対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア教育やライフ・スキル教育、問題を抱える子どもへの自立支援事業、進路指導、健康教育等など、子どものライフサポートに関する最新の取り組みについて、全国の学校や教育委員会の実践の概況に関する講義を受け、状況を把握する。・・・（講義・討論） 2. いくつかの興味の及ぶメンバーでグループを編成し、文献講読及びインターネットなどで検索し、子どものライフサポートに関する最新の取り組みの成果や課題について詳細な情報を収集する。各グループのテーマに関する講義を受ける。（不登校・ひきこもり問題とキャリアの問題）・・・（講義・討議） 3. 子どものライフサポートに関する最新の取り組みの成果や課題を、グループ別に整理する。また、各グループのテーマに関する講義を受ける。（小中連携による不登校対策）・・・（講義・討論） <u>4. 子どものライフサポートに関する最新の取り組みの成果や課題を、グループ別に整理する。また、各グループのテーマに関する講義を受ける。（いじめ・暴力行為の問題）・・・（講義・グループワーク・討論）</u> 5. 子どものライフサポートに関する最新の取り組みの成果や課題を、グループ別に整理する。また、各グループのテーマに関する講義を受ける。（院内学級・病弱の課題）・・・（講義・グループワーク・討論） 6. 子どものライフサポートに関わって、個別に支援をしていくために教師に必要なスキルをクラウンワークから体験的に学ぶ。（病院クラウンワーク）・・・（グループワーク） 7. 子どものライフサポートに関する最新の取り組みの成果や課題について、グループごとに、報告発表を行い、その成果や課題について討議する。各グループのテーマに関する講義を受ける。（虐

待問題)・・・(講義・発表・討議)

8. 連携協力校や地域教育委員会の進路指導、生徒指導、教育相談、健康教育などの校内組織の構成を把握しつつ、当該学校の教育課程を見直し、子どものライフサポートの視点から、教育課程のシミュレーションモデルや組織や制度の改善モデルを机上で作成するように、グループを作成する。ストレートマスターは、連携協力校のシミュレーションモデルを作成し、現職教員学生は、勤務校あるいは担当教育委員会内の特定の学校のカリキュラムの改善モデルを作成するように求める。また、各グループのテーマに関する講義を受ける。(危機介入と PTSD)・・・(講義・グループワーク)
9. 課題に関わって個々人が課題の所在を明確にし、混合メンバーを構成して、課題別のグループ内で、各人が考える互いに課題の所在を報告し、討議する。・・・(討議)
10. 課題の所在をグループ内で検討し、他のメンバーに投げかける解決策策定に関わる質問を特定する。また、各グループで課題解決の手法に関わる講義を受ける。ロジカルシンキング、付箋法、セブクロス法などの各種技法を適宜学ぶ(課題解決方法)・・・(講義・討議)
11. 各グループで、暫定的な課題解決策を定め、さらに詳細に課題解決策を策定するために質問を投げかけ、全員から、多種多様なアイデアを求める質問を発信し、回答を得る。また、各グループで課題解決の手法に関わる講義を受ける。(解決策を仲間を求めるための効果的な発問技法)・・・(講義・討議)
12. グループ内で詳細の解決策のプランを作成するための討議を行う。また、本講義に関わる講義を行う。(ライフ・スキル教育)・・・(講義・討議)
13. グループ内で詳細の解決策のプランを作成するための討議を行う。また、本講義に関わる講義を行う。(キャリア教育)・・・(講義・討議)
14. 課題解決策を、プレゼンテーションを行い、互いに評価をする。・・・(ワークショップ1)
15. 課題解決策を、プレゼンテーションを行い、互いに評価をする。・・・(ワークショップ2)

【授業内容】

生き方指導としての進路指導・キャリア教育と生活の質（quality of life）の維持と向上を目指す生徒指導の視点の双方を理解し、子どもの能力と発達を視野に入れつつ、柔軟に教育課程や組織の課題を見出し、それらの課題の解決策を考えることを通して、子どもをサポートする力を総合的に学ぶ。具体的には、①子どものライフサポートの視点から、組織的・系統的な教育を推進するために、連携協力校の進路指導、生徒指導、教育相談、健康教育などの校内組織の構成と教育課程を把握し、当該学校の教育課程や校内組織から課題を導き出し、机上で改善案を作成する。②当該学校の子どもの支援計画や課題解決策を作成し、支援に必要な技量をロールプレイングなどで獲得すると共に、課題解決のための具体策を提案する。③以上を踏まえて、その課題解決策が実現可能か否かを吟味、相互評価するものである。その中で、

★2011年度は、参加者全員で、いじめの未然防止プログラムを作成することになり、上記授業計画の9回～15回は、いじめ未然防止の総合的な教育プログラム作成に取り掛かった。

開発された「未然防止プログラム」は、授業の成果物として、DVDで教職大学院の教員、大学院生に配布したほか、教育実践創成研修（実習）でも複数の研修校で実践が展開され、成果を上げた。

また、「東日本大震災特設教師のための電子メール相談」でも、ここで開発された指導案は、2012年4月にはWEB上で公開された。また、2012年度の生徒指導関連での研修会では、これらのプログラムの一部は紹介されている。

主要プログラムは、以下の通りである。

※道徳授業指導案「ナシってどれですか？」 http://for-supporters.net/column_future7.html

※特別活動指導案（軽微ないたずらに対して）「堪忍袋」 http://for-supporters.net/column_future8.html

※保護者会（4月新学期用）「いじめについてのワークショップ」

http://for-supporters.net/column_future6.html

※保護者会「心の安心・安全宣言」標準話形

※「いじめ発覚後の保護者への連絡」標準話形

また、

★2009年度にも、いくつかのグループが形成されたが、その中で3名のグループが、「いじめ問題」を取り上げ、「学内LANを使ったネットカウンセリング：いじめ被害者支援構想」を作成した。

授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>11. <u>個別の面接技能のスキルアップ1、本人面接・・・(ロールプレイング)</u></p> <p>12. <u>個別の面接技能のスキルアップ2、本人面接・・・(ロールプレイング)</u></p> <p>13. <u>個別の面接技能のスキルアップ3、保護者面接・・・(ロールプレイング)</u></p> <p>14. <u>個別の面接技能のスキルアップ4、三者面談・・・(ロールプレイング)</u></p> <p>15. <u>ロールプレイングの面接記録作成とレポート作成・・・(ロールプレイング)</u></p>
-----------------------------	--

【授業内容】

生徒指導提要で示す第3章「児童生徒の心理と児童生徒理解」、第4章「学校における生徒指導体制」、第5章「教育相談」、6章「生徒指導の進め方」、8章「学校と家庭・地域・関係機関との連携」を中心として、本講義は進められる。生活の質（quality of life）の維持と向上を目指す生徒指導の視点の双方を理解し、子どもの能力と発達を視野に入れつつ、柔軟に教育課程や組織の課題を見出し、それらの課題の解決策を考えることを通して、子どもをサポートする力を総合的に学ぶ。課題をかかえた児童・生徒への指導、支援計画の立案能力と、学校内で支援体制を確立し、チームで生徒指導、教育相談を行える教師を育成する。具体的には、レベルに応じて、①各自の生徒指導、教育相談、特別支援教育に関わる実践事例をもとに、指導・支援計画を相互に立案し、相談技量を高める。②同僚教師へ効果的に支援する方法を学ぶ中で、相互に批評し合うカンファレンスの技量を高める。③具体的な面接技量を学ぶ中で、授業場面での応答構成技量の向上の応用について検討、評価を加え、総合的に学ぶ。

★（第6回の講義）いじめの定義のみならず、我が国のいじめが他国に比べてとくに多いわけではないことなどの歪められている認識を、国際比較研究データを示しながら伝え、いじめ問題に対する認識を新たにしてもらおう。その上で、被害児童生徒の支援のみならず、加害児童生徒への支援方法、学校の組織的関わりと、未然防止と、早期発見のための工夫を伝える。

★（8回～14回の中で）いじめの未然防止のための、社会性育成の手法を教授すると共に、いじめの問題に苦慮している児童生徒との面接や保護者の面接を、ロールプレイングによって習得する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（山梨大学・教育人間科学部）

授業科目名	子ども援助の実践的課題
教員名（専門分野）	東海林 麗香 （発達心理学） 蘆原 桂 （教育学） 藤森 颯治 （教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 13名
対象課程・対象学年	学部・修士・ <u>教職大学院</u> 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	第1回 オリエンテーション：問題意識の明確化 第2回 子ども援助の理論的枠組み 第3回 不登校の現状理解 第4回 不登校の経験的理解（1）：子どもの「声」の事例研究 第5回 不登校の経験的理解（2）：保護者の「声」の事例研究 第6回 不登校への対応（1）：小学校における実践事例研究 第7回 不登校への対応（2）：中学校での実践事例研究 <u>第8回 「いじめ」の理解</u> <u>第9回 「いじめ」事件の事例研究</u> <u>第10回 海外における「いじめ」への対応事例研究</u> <u>第11回 小学校における「いじめ」への援助実践事例研究</u> <u>第12回 中学校における「いじめ」への援助実践事例研究</u> 第13回 発達障害（LD・AD/HD・高機能自閉症）の経験的理解 第14回 発達障害（LD・AD/HD・高機能自閉症）への援助実践の事例検討 第15回 全体のまとめ

【授業内容】

第8回： 「いじめ」の理解

「いじめ」についての理論的講義の後、文部科学省統計や答申等の公文書の分析からいじめの現状を理解・確認することを目的とし、「いじめ」に対する基本的な考え方について学生によるプレゼンテーションに基づき、全体ディスカッションを行う。

第9回： 「いじめ」事件の事例研究

日本においてどのような「いじめ」事件が発生してきたのか、また、それらの事件についてどのような社会的受け止め方がなされてきたのかについて、代表的とも言える「いじめ」事件をとりあげ、新聞報道・手記・HP等に見られるいじめ事件について詳細に分析したプレゼンテーションに基づき、全体ディスカッションを行う。

第10回： 海外における「いじめ」への対応事例研究

海外（イギリス・アメリカ・ノルウェー等）においてどのような「いじめ」対応策が講じられているのか、その現状を文献から明らかにし、日本における対応策との相違点や相違の背景にある考え方や文化的差異、日本における対応策に参考になる点や導入に困難な点について、全体ディスカッションを行う。

第11回： 小学校における「いじめ」への援助実践事例研究

現職教員学生の実験経験もしくは公開されている小学校におけるいじめ援助実践事例（個別援助またはチーム援助）を詳細に検討する。これまで学習した内容をふまえて、現状に適した実践となっているか、効果はどのような形であらわれたのか再検討し、協働的支援のあり方について討議する。

第12回： 中学校における「いじめ」への援助実践事例研究

現職教員学生の実験経験もしくは公開されている中学校における「いじめ」援助実践事例（個別援助またはチーム援助）を募り、これまで学習した内容をふまえて、現状に適した実践となっているか、効果はどのような形であらわれたのか再検討し、協働的支援のあり方についてディスカッションを行う。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（上越教育大学）

授業科目名	学び合いの授業論
教員名（専門分野）	西川 純（臨床教科教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育課程及び指導法に関する科目 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
単位数・受講者数	2単位 ・ 29名
対象課程・対象学年	学部・修士・ <u>教職大学院</u> 1, 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	第1回：オリエンテーション 第2回：よい教材とは何か？ 第3回：教師の職能とは何か？ 第4回：どんな教師が子どもに好かれるか？ 第5回：学級崩壊の原因と対応策 <u>第6回：いじめの原因と対応策</u> 第7回：廊下を走らないようにするにはどうしたらよいか？ 第8回：学校参観 第9回：学校参観 第10回：学校参観 第11回：参観に関するまとめ 第12回：学校参観 第13回：学校参観 第14回：参観に関するまとめ 第15回：総合的まとめ

【授業内容】

●イジメの原因

イジメがクラスにあったとき、大抵の教師はイジメの加害者や被害者を呼んで、状況を聞き出し、それぞれに指導をしたいと思います。何故でしょうか？それはイジメの原因は、加害者や被害者の個人的なパーソナリティにあると思うからです。

ここで職員室に置き換えて下さい。同僚の中にはウマの合わない人はいるものです。恥じる必要性はありません。そのような人が一人もいないという方が異常です。その中には、ムカムカするほど嫌いな人がいるかも知れません。あなたはいなくても、あなたの同僚の中に、そのような人が同じ職場にいる人もいますでしょう。

では、あなたの職場で以下のような人がいるでしょうか？

「無視」を半年以上し続けており、会話は全くない。

校舎の裏手で、同僚に暴力をふるう。

同僚の持ち物を隠したり、トイレの中に捨てる。

おそらく、いないと思います。ではどうしていますか？おそらく、それなりに必要なときは会話をし、仕事を一緒にしますが、出来る限り距離を置いている、つまり関わらないようにしていると思います。何故でしょうか？それは、それが一番楽だからです。

子どもも同じです。無視をしたり、暴力をふるったり、ものを盗むには労力がかかりますし、リスクもあります。だから、普通だったらそのようなことはせずに距離を置くほうが楽なのです。

つまり、原因は気に入くない等の個人的な感情ではありません。わざわざ労力とリスクの必要な方法を探るかということを探らなければならないのです。

●競争と協同

何故、イジメが起こるのでしょうか？これを考えるにはドイチェという人の「競争と協同の定義」が参考になります。彼によれば、両者の決定的な違いは、競争の場合は、一部のメンバーにしか達成出来ない目標を与えていることを指します。例えば、相対評価の通知票で「5」を取ろうという目標がそれにあたります。この場合、誰かが目標を達成するということは、誰かが目標を達成出来ないということと同値です。一方、協同とは、全員が達成出来る目標を与えていることを指します。例えば、絶対評価の通知票で「5」を取ろうという目標がそれにあたります。この場合、全員が目標を達成することが出来ます。

学級崩壊しているクラスにイジメはないと言われます。何故でしょうか？それは学級崩壊しているクラスの教師には権威がありません。だから、その教師が競争的な課題を与えたとしても、イジメをするほどの価値を持たないからです。

従って、イジメのあるクラスは、圧倒的に影響力を持つ教師のクラスに起こります。ある先生の場合は、指導力のある先生と周りから評価される先生かも知れません。また、子ども達からアイドル的な教師かもしれません。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岐阜大学・教育学研究科（教職大学院））

授業科目名	いじめ・不登校問題の理解と実践
教員名（専門分野）	橋良治（教育心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目（教職の意義等に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 7名
対象課程・対象学年	学部・修士・ 教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>第1回：<u>いじめ関連データの紹介・いじめとは</u></p> <p>第2回：<u>[なぜいじめはなくなるか？] 英 BBC 製作ビデオ</u> <u>視聴と意見交換</u></p> <p>第3回：<u>Dan Olweus (Norway) のいじめ研究の紹介</u> <u>「カナダ小学校のオルヴェウスプログラム導入の一年」 NHKBS1</u> <u>視聴と意見交換</u></p> <p>第4回：<u>Olweus & Limber(2000) Bullying prevention program1</u> <u>を邦訳し解説と議論 全79頁 (Colorado Univ Press)</u> <u>いじめ研究の要約、理論的根拠と概念的枠組み</u></p> <p>第5回：<u>Bullying Prevention Program2</u> <u>基本原理、介入の仕方</u></p> <p>第6回：<u>Bullying Prevention Program3</u> <u>プログラムの計画と実行、目標と測定</u></p> <p>第7回：<u>Bullying Prevention Program4 賞罰</u> <u>ビデオ視聴 [アメリカペンシルバニア小学校の“ルールと罰”]</u></p> <p>第8回：<u>Bullying Prevention Program5 学級レベルの罰とルール</u> <u>ビデオ視聴「韓国ソウル中学校～いじめを報告せよ」討論</u></p> <p>第9回：<u>Bullying Prevention Program6 個人レベルの対応</u> <u>ビデオ視聴「アメリカのいじめ防止法律・オーストラリア生きる力の育み」討論</u></p> <p>第10回：不登校 文科省不登校への指針・不登校を巡る諸問題 1</p> <p>第11回：不登校 不登校を巡る諸問題 2・不登校と精神的障害</p> <p>第12回：論文講読 [中学生の不登校傾向と幼少期の父親及び母親への愛着との関連] 五十嵐・萩原（2004）</p> <p>第13回：論文講読 第12回の後半</p> <p>第14回：不登校生徒の進学 多様な不登校高校</p> <p>第15回：不登校生徒の進学 受講者によるパンフ紹介</p>

【授業内容】

- * 世界各国のいじめの現状と対策に関するビデオの視聴とそれらについての議論
 - 「なぜいじめはなくなるのか？ーイギリス」BBC⇒NHKBS1
 - 「オルヴェウスいじめ防止プログラム導入の一年ーカナダ小学校」NHKBS1
 - 「いじめルールと罰ーアメリカ小学校」NHKBS1
 - 「いじめを報告せよー韓国中学校」NHKBS1
 - 「オーストラリア生きる力の育み・アメリカいじめ防止法律」NHKBS1
- * D. Olweus(2000): Bullying prevention program. p1-79 を邦訳配布したうえで講読し、章ごとに解説し議論する。

- * 不登校を巡る諸問題の提示と議論
 - 例： 不登校の扱いの変化、居場所づくり、家族の問題、タイプに見合った援助・・・
- * 不登校への対応・取り組み～文科省 HP
- * 不登校と精神的障害
 - 適応障害と不安障害を中心に
- * 不登校に関する論文の講読
 - 五十嵐・萩原（2004）：「中学生の不登校傾向と幼少期の父親及び母親への愛着との関連」
- * 不登校生徒の進学
 - 不登校生徒の入学を推進する高校の内容紹介

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岐阜大学・教育学研究科（教職大学院））

授業科目名	教育臨床の理論と実践
教員名（専門分野）	柳沼良太（道徳教育・生徒指導）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目（教職の意義等に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 8名
対象課程・対象学年	学部・修士・ 教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスおよび教育臨床の基礎理論 2. これまでの学生自身の教育臨床実践を振り返り省察する。 3. ロジャースの来談者中心療法 4. エリスの論理療法 5. 交流分析とエゴグラムの活用 6.フロイトと精神分析の手法 7. 動機づけ（モチベーション）の理論と実践 8. 認知療法 9. 短期療法（ブリーフ・セラピー） 10. 物語療法（ナラティブ・セラピー） <u>11. 事例研究（いじめ、不登校など）</u> 12. 構成的グループエンカウターの理論 13. 構成的グループエンカウターの実際（小学校編） 14. 構成的グループエンカウターの実際（中学校編） 15. まとめ（これからの教育臨床実践について）

【授業内容】

教育臨床の基礎理論を理解した上で、それを具体的ないじめ問題に応用する方法を検討する。

カウンセリングの理論と技法として来談者中心療法、認知療法、論理療法、行動療法、精神分析、交流分析、物語療法などの理論と方法を解説し、それらはいじめ問題に適用した場合の実践例を考察する。

1980年代から今日までの具体的ないじめの事例を小学校と中学校でそれぞれ提示し、グループ・ディスカッションをした後に全体討議を行う。

現職教員の院生が勤務校で実際に起きたいじめの事例も取り上げ、その対応法についても検討する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岐阜大学・教育学研究科（教職大学院））

授業科目名	生徒指導・教育相談の事例研究
教員名（専門分野）	橋本 治（教育臨床）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目（教職の意義等に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 15名
対象課程・対象学年	学部・修士・ 教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>（1）学校教育相談の実践史から学校カウンセリング・コンサルテーションの今後の課題や展望を明確にする。（2）カウンセリングの観点から学校カウンセリング（主として小学校）を機能的に考察する。</p> <p>（3）カウンセリングの観点から学校カウンセリング（主として中学校）を機能的に考察する。（4）カウンセリングの観点から学校カウンセリング（主として高等学校）を機能的に考察する。（5）コンサルテーションの観点から学校カウンセリング（主として小学校）を機能的に考察する。（6）コンサルテーションの観点から学校カウンセリング（主として中学校）を機能的に考察する。（7）コンサルテーションの観点から学校カウンセリング（主として高等学校）を機能的に考察する。（8）コーディネーションの観点から学校カウンセリング（主として小学校）を機能的に考察する。（9）コーディネーションの観点から学校カウンセリング（主として中学校）を機能的に考察する。（10）コーディネーションの観点から学校カウンセリング（主として高等学校）を機能的に考察する。（11）「不登校」の実践上の諸問題から学校カウンセリングの機能を明確にする。（12）<u>「いじめ」の実践上の諸問題から学校カウンセリングの機能を明確にする。</u>（13）「自殺(未遂)」の実践上の諸問題から学校カウンセリングの機能を明確にする。（14）「非行」の実践上の諸問題から学校カウンセリングの機能を明確にする。（15）「発達障害」の実践上の諸問題から学校カウンセリングの機能を明確にする</p>

【授業内容】

第12回「いじめ」の実践上の諸問題から学校カウンセリングの機能を明確にする。

1. いじめ問題を見逃さない10のポイント

- ① 本人を支えるためには「ともに支えていきましょう」という、家庭と学校との信頼関係が不可欠である。
- ② 一般的な相談に大きな相談が隠れている。
- ③ 教師の立場からみて、「子どもの方が悪い」という場合でも、保護者が「学校がとりあってくれない」と感じる場合は、対応が十分ではない。
- ④ 子どものサインをキャッチできる素地は、子どもと感動したり驚いたりする共感性の感覚である。
- ⑤ 教師から見れば模範的な子だが、周りの雰囲気合わないと孤立してしまう。
- ⑥ 一人でもいいから、心を割って話せるか打ち明けられる子がいることが大切である。
- ⑦ 複数の見方をしないと、本当の姿が見えてこない。複数の教師が連携することで、よりよいアドバイスを可能になる。
- ⑧ 教師は相談に慣れていない。アマチュアであることを自覚しなければいけない。
- ⑨ 相談は、形にとらわれる必要はない。保護者が「よく聴いてくれた」となればよい。
- ⑩ 教師と保護者とで考えがすれ違うことはよくある。その時、すぐに対応するためには、教師が一步引くべきである。

2. 子どもたちのいじめ問題を見逃さないために（ケースを通して）

(1) ケース1・・・保育園年少児A君（集団不適応）

(2) ケース2・・・小学校5年生男子B君（いじめ・不登校・アスペルガー症候群）

(3) ケース3・・・中学校3年生女子Cさん（いじめ・不登校・うつ病）

(4) 対応について（ケース1, 2, 3共通に）

- ① 専門機関との連携・・・医療機関、児童相談所、教育センター
- ② いじめ問題への対応・・・集団不適応、いじめ、不登校、
- ③ どのようなチーム支援を（校内のチームを確立して）・・・校内体制
- ④ 実際の相談体制の確立（校内のチームを利用して）・・・相談体制
 - ア. 学校ですべきこと・・・Ⅰ この子への対応
・・・Ⅱ まわりの子への対応（学級経営を含む）
 - イ. 家庭ですべきこと
- ⑤ 将来への展望を明確に（少なくとも5年後を見すえて）・・・小3、高1、20歳

3. 成長支援関係を持つ

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岐阜大学・教育学研究科（教職大学院））

授業科目名	生徒指導・教育相談の理論と実践
教員名（専門分野）	柳沼良太（道徳教育・生徒指導）、林幸克（特別活動・学級経営）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目（教職の意義等に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 49名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・ <u>教職大学院</u> 1年生対象（研究科共通）
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の意義と原理 2 生徒指導の歴史的考察 3 生徒指導と教育課程 4 生徒指導の行内組織体制 5 進路指導 6 キャリア教育 7 職場体験学習の意義と課題 8 職業レディネステスト等の活用 9 外部諸機関・施設との連携 10 生徒指導主事に求められる資質・能力 11 教育相談の意義と原理 12 カウンセリングのマインドとスキル 13 <u>生徒指導と教育相談の諸問題に関するケーススタディ</u> 14 生徒指導と教育相談の今後の展望 15 授業の総括

【授業内容】

生徒指導と教育相談の理論をもとに、いじめ問題を根本的に理解する。被害者、加害者、傍観者、仲裁者の立場をそれぞれ検討し、いじめの構造を分析する。

児童生徒のいじめに関する事例研究を通して、その問題点や対応の在り方を分析・検討する。児童生徒の個性と発達課題を踏まえ、いじめに関する問題行動の事後処理的な指導法だけでなく、積極的に予防する指導法を考察する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（愛知教育大学・教育学部）

授業科目名	協働する学校づくり
教員名（専門分野）	添田久美子（教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修 ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 35名
対象課程・対象学年	学部・修士・ 教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回：保護者との協働体制づくり① <u>学校で日常的に起こる事柄を取り上げ、ロールプレイングによって、コミュニケーションの在り方を改善する。</u></p> <p>第2回：保護者との協働体制づくり② <u>学校で日常的に起こる事柄を取り上げ、ロールプレイングによって、コミュニケーションの在り方を改善する。</u></p> <p>第3回：保護者との協働体制づくり③ まとめ</p> <p>第4回：教職員との協働体制づくり① 学校で日常的に起こる事柄を取り上げ、ロールプレイングによって、コミュニケーションの在り方を改善する。</p> <p>第5回：教職員との協働体制づくり② 学校で日常的に起こる事柄を取り上げ、ロールプレイングによって、コミュニケーションの在り方を改善する。</p> <p>第6回：教職員との協働体制づくり③ まとめ</p> <p>第7回：地域・校区研究① 校区調査を行う</p> <p>第8回：地域・校区研究② 校区調査を行う</p> <p>第9回：地域・校区研究③ ディスカッションを行う</p> <p>第10回：地域・校区研究④ ディスカッションを行う</p> <p>第11回：学校づくりコース2年次の学生による自校の事例紹介①</p> <p>第12回：学校づくりコース2年次の学生による自校の事例紹介②</p> <p>第13回：応用領域・組織論とリーダーシップ 基礎領域・学校行事と学校経営</p> <p>第14回：応用領域・組織論とリーダーシップ 基礎領域・報告書の目的と書き方</p> <p>第15回：応用領域・組織論とリーダーシップ 基礎領域・報告書の目的と書き方</p>

【授業内容】

(第1回：保護者との協働体制づくり①)

学校で日常的に起こる事柄を取り上げ、ロールプレイングによって、コミュニケーションの在り方を改善する。

(第2回：保護者との協働体制づくり②)

学校で日常的に起こる事柄を取り上げ、ロールプレイングによって、コミュニケーションの在り方を改善する。

(第3回：保護者との協働体制づくり③ まとめ)

よく起こるいじめの事例を取り上げ、ストレートマスターと現職教員院生の混合グループによりロール・プレイングを行う。ストレートマスターが担任教員、学年主任などの役割を担い、現職院生が自動、生徒、保護者、教務主任等を担う。観察者がやりとりの記録をとる。

- ・ロール・プレイング
- ・記録を見ながらそれぞれの役割における対応の検証と課題発見のためのグループ討議
- ・グループ発表（教員による各役割者への質疑を含）
- ・いじめに関する法規・通知・取組の確認
- ・いじめに関する研究・調査の学習
- ・いじめにおける対応として今日的課題について認識を深める

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・連合教職実践研究科）

授業科目名	問題行動改善のための事例研究
教員名（専門分野）	三上 周治
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	【専修免】教科又は教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 15名
対象課程・対象学年	学部・修士・ 教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>1 オリエンテーション</p> <p><u>2 いじめの現状</u> いじめに関する文部科学省による統計及びその他の統計調査を分析し、討論する(文献調査)。</p> <p><u>3 いじめと体罰や自殺との関連</u> 体罰との関連が考えられるいじめの具体的事例やいじめの結果自殺に至ったとされる事例を検証し、どのように関連があったのか分析・討論する(文献調査)。</p> <p>4 フィールドワークの準備</p> <p>5 教育委員会への聞き取り調査（1）</p> <p>6 教育委員会への聞き取り調査（2）</p> <p>7 フィールドワークの振り返り</p> <p><u>8 各国のいじめ対策（1）<アメリカ></u> アメリカでなされているいじめ対策を知る。</p> <p><u>9 各国のいじめ対策（2）<スウェーデン></u> スウェーデンでなされているいじめ対策を知る。</p> <p>10 構成的グループエンカウンター（1）</p> <p>11 構成的グループエンカウンター（2）</p> <p>12 構成的グループエンカウンター（3）</p> <p>13 構成的グループエンカウンター（4）</p> <p><u>14 いじめ対策のあり方検討</u> フィールドワークや事例研究、諸外国の例から得られた知見をもとに、いじめ対策モデルを各自で構築し、発表する。</p> <p>15 授業の振り返りと交流</p>

【授業内容】

(第2回：いじめの現状)

(第3回：いじめと体罰や自殺との関連)

(第8回：各国のいじめ対策（1）<アメリカ>)

(第9回：各国のいじめ対策（2）<スウェーデン>)

(第14回：いじめ対策のあり方検討)

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・大学院学校教育研究科）

授業科目名	児童生徒の問題行動に関する事例研究 A
教員名（専門分野）	新井 肇（生徒指導）・松本 剛・隈元 みちる・橋本 和明・ 雲井 弘幸（昼間のみ）大島 剛（夜間のみ）・中尾 豊喜（夜間のみ）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	第6条の2（免許法別表第1第3欄 教科又は教職に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 35名(内 夜間6名)
対象課程・対象学年	学部・修士・ <u>教職大学院</u> 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回：児童生徒の問題行動の現状と生徒指導の課題 【講義・学校における実践経験の報告及び考察】</p> <p>第2回：児童生徒の問題行動の理解と組織的対応の方法【講義】</p> <p>第3回：非社会的問題行動の理解に関する事例研究 【講義・ケーススタディ】</p> <p>第4回：非社会的問題行動への対応の事例研究 【講義・ロールプレイング】</p> <p><u>第5回：反社会的問題行動の理解と組織的対応の事例研究</u> <u>【講義・ケーススタディ】</u></p> <p>第6回：学校危機に関する組織的対応の事例研究 【講義・ワークショップ】</p> <p>第7回：学校内における問題行動への組織的対応の事例研究 【ケーススタディ】</p> <p>第8回：問題行動をめぐる学校・家庭・地域・専門機関の連携に関 する事例研究【ケーススタディ】</p> <p>第9回：サポートチームによる問題対応の理論と実際 【講義・シミュレーション】</p> <p>第10回：児童相談所の役割と学校との連携 【講義・フィールドワーク】</p> <p>第11回：児童相談所からみた子どもたちの現在 【講義・ワークショップ】</p> <p>第12回：学校と児童相談所の行動連携に関する事例研究 【ケーススタディ】</p> <p>第13回：家庭裁判所の役割と学校との連携</p>

【講義・フィールドワーク】

第14回：家庭裁判所からみた子どもたちの現在

【講義・ワークショップ】

第15回：学校と家庭裁判所との行動連携に関する事例研究

【ケーススタディ】

【授業内容】

第5回：反社会的問題行動の理解と組織的対応の事例研究【講義・ケーススタディ】

いじめ問題の理解と対応について

いじめは児童生徒の心身の健全な発達や成長に重大な影響を及ぼし、学校不適応や不登校をはじめ、時には自殺や殺人なども引き起こしかねない深刻な問題である。教師はいじめの深刻さを十分に認識するとともに、どの子どもにも、どの学校にも起こりえるものとしてとらえる必要がある。

そこで、事例を基に、いじめ問題を反社会的問題行動として位置付け、いじめ問題の理解と組織的対応について研究を行った。使用した事例は、高校1年男子生徒が中心となって多くの生徒に対して集団的暴行を加えた悪質ないじめ問題を全校体制での粘り強い組織的対応によって解決へと導いた事例である。いじめ問題の基本的理解にふれながら、いじめの被害者と加害者の心理、いじめの構造への介入、チームによる組織的対応の在り方という視点から検討を加えていった。

1. 事例の概要について
2. 辞令の解説について
 - (1) いじめられたことを言わない心理
 - (2) いじめの構造への介入
 - (3) いじめる心理への着目
 - (4) いじめ問題への組織的対応の重要性

【参考文献】

森田洋司・清永賢二（1986）いじめ－教室の病－ 金子書房

竹川郁雄（2006） いじめ現象の再検討－日常社会規範と集団の視点－ 法律文化社

小泉祥一・柴山謙二・滝充・八並光俊・山下和英・坂根健二・朝倉一隆（2008）特集・いじめ 問題への取組－これまでとこれから－ 生徒指導学研究第7号 pp.6-56

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・大学院学校教育研究科）

授業科目名	児童生徒の問題行動に関する事例研究 B
教員名（専門分野）	新井 肇（生徒指導）・松本 剛・隈元 みちる・橋本 和明・ 雲井 弘幸
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・ <input type="checkbox"/> 選択・ <input type="checkbox"/> 選択必修・その他（ <input type="checkbox"/> ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	第6条の2（免許法別表第1第3欄 教科又は教職に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 43名
対象課程・対象学年	学部・修士・ <input checked="" type="checkbox"/> 教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に 下線）	<p>第1回：児童生徒の問題行動の現状と生徒指導の課題 【講義・学校における実践経験の報告及び考察】</p> <p>第2回：児童生徒の問題行動の理解と組織的対応の方法【講義】</p> <p>第3回：非社会的問題行動の理解と対応の事例研究（1） 【講義・ケーススタディ】</p> <p>第4回：非社会的問題行動の理解と対応の事例研究（2） 【講義・ロールプレイング】</p> <p><u>第5回：反社会的問題行動の理解と組織的対応の事例研究</u> <u>【講義・ケーススタディ】</u></p> <p>第6回：学校危機に関する組織的対応の事例研究 【講義・ワークショップ】</p> <p>第7回：学校内における問題行動への組織的対応の事例研究 【ケーススタディ】</p> <p>第8回：問題行動をめぐる学校・家庭・地域・関係機関の連携の 事例研究【ケーススタディ】</p> <p>第9回：サポートチームによる問題対応の理論と実際 【講義・シミュレーション】</p> <p>第10回：家庭裁判所の役割と学校との連携 【講義・フィールドワーク】</p> <p>第11回：家庭裁判所からみた子どもたちの現在 【講義・ワークショップ】</p> <p>第12回：学校と家庭裁判所との行動連携に関する事例研究 【ケーススタディ】</p> <p>第13回：児童相談所の役割と学校との連携</p>

【講義・フィールドワーク】

第14回：児童相談所からみた子どもたちの現在

【講義・ワークショップ】

第15回：学校と児童相談所の行動連携に関する事例研究

【ケーススタディ】

【授業内容】

第5回：反社会的問題行動の理解と組織的対応の事例研究【講義・ケーススタディ】

いじめ問題の理解と対応について

いじめは児童生徒の心身の健全な発達や成長に重大な影響を及ぼし、学校不適応や不登校をはじめ、時には自殺や殺人なども引き起こしかねない深刻な問題である。教師はいじめの深刻さを十分に認識するとともに、どの子どもにも、どの学校にも起こりえるものとしてとらえる必要がある。

そこで、事例を基に、いじめ問題を反社会的問題行動として位置付け、いじめ問題の理解と組織的対応について研究を行った。使用した事例は、高校1年男子生徒が中心となって多くの生徒に対して集団的暴行を加えた悪質ないじめ問題を全校体制での粘り強い組織的対応によって解決へと導いた事例である。いじめ問題の基本的理解にふれながら、いじめの被害者と加害者の心理、いじめの構造への介入、チームによる組織的対応の在り方という視点から検討を加えていった。

3. 事例の概要について

4. 辞令の解説について

- (5) いじめられたことを言わない心理
- (6) いじめの構造への介入
- (7) いじめる心理への着目
- (8) いじめ問題への組織的対応の重要性

【参考文献】

森田洋司・清永賢二（1986）いじめ－教室の病－ 金子書房

竹川郁雄（2006）いじめ現象の再検討－日常社会規範と集団の視点－ 法律文化社

小泉祥一・柴山謙二・滝充・八並光俊・山下和英・坂根健二・朝倉一隆（2008）特集・いじめ 問題への取組－これまでとこれから－ 生徒指導学研究第7号 pp.6-56

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・大学院学校教育研究科）

授業科目名	生徒指導とキャリア教育の実際
教員名（専門分野）	吉川 芳則・古川 雅文・松本 剛
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修 ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	第6条の2（免許法別表第1第3欄 教科又は教職に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 41名
対象課程・対象学年	学部・修士・ 教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回：<u>聴き取り調査の内容と方法の確認及びいじめに関する事例研究【講義及びワークショップ】</u></p> <p>第2回：不登校支援についての理解【講義及びワークショップ】</p> <p>第3回：暴力行為に関する事例についての協議【講義及びワークショップ】</p> <p>第4回：<u>聴き取り調査の結果について協議、資料作成【ワークショップ】</u></p> <p>第5回：<u>聞き取り調査の結果についての発表【ワークショップ】</u></p> <p>第6回：キャリア教育の概要についての理解【講義・演習】</p> <p>第7回：発達の観点からのキャリア教育</p> <p>第8回：キャリア教育に関する実践事例の検討【ワークショップ】</p> <p>第9回：キャリア教育に関する実践事例の発表による共有化・討議(1)【ワークショップ】</p> <p>第10回：キャリア教育に関する実践事例の発表による共有化・討議(2)【ワークショップ】</p> <p>第11回：不登校支援・生徒指導等に関する取り組みの交流・まとめ【ワークショップ】</p> <p>第12回：プレゼンテーション資料の作成【ワークショップ】</p> <p>第13回：グループ発表(1)【ワークショップ】</p> <p>第14回：グループ発表(2)【ワークショップ】</p> <p>第15回：講義及びワークショップ</p>

【授業内容】

第1回：聴き取り調査の内容と方法の確認及びいじめに関する事例研究【講義及びワークショップ】

第4回：聴き取り調査の結果について協議、資料作成【ワークショップ】

第5回：聞き取り調査の結果についての発表【ワークショップ】

第1回

○授業全体のオリエンテーション。

- ・授業全体の目的、構成等について。

○第4回及び5回に予定されている「聴き取り調査の発表」に向けてのガイダンス。

- ・調査対象とするテーマは「非行」「校内暴力」「いじめ」の中から選ぶこと
(不登校については、第10回～14回で詳しく扱うため)。

- ・聴き取りの対照は、現職教員とすること

(小学校教員が望ましいが、中、高、特別支援も可とする)。

- ・問題事例、指導のあり方(成果と課題)の具体を聞き取ること。

○「いじめ」への具体的指導のあり方について検討、協議する。

- ・スクールカウンセラー等、いじめに関与する子どもたちに直接関わっている人たちが記している指導のあり方、姿勢(以下参照)を基に協議する。

①いじめをする子、いじめられている子の示すサインの具体

②いじめを止めるために子どもの周囲にいる大人(保護者、教師)にしてほしいこと、
してほしくないことの具体例

③自尊感情の醸成、体罰、言葉の暴力、傾聴姿勢等

第4回、第5回

○グループごとに設定したテーマに基づいて、聞き取り調査を行った結果と考察についての発表
会と協議

(平成24年度のいじめに関する発表テーマ例：「発達障害の子どもに対するいじめ—二次障
害への予防的支援に着目して—」「どこからがいじめか?—加害者と被害者の認識の違い—」
「子どもを大切にするために—いじめと不登校の事例から—」「中学校女子生徒の友人関係
におけるいじめ事例」等)

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・大学院学校教育研究科）

授業科目名	生徒指導のための協働的指導体制の事例研究
教員名（専門分野）	新井 肇（生徒指導）・木村 慶・原田耕一郎・前橋信和
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修 ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	第6条の2（免許法別表第1第3欄 教科又は教職に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 12名(内 夜間2名)
対象課程・対象学年	学部・修士・ 教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>第1回：児童生徒の問題行動の現状と生徒指導の機能 【講義・ワークショップ】</p> <p>第2回：生徒指導体制と生徒指導機能の関連性 【講義・学校における実践経験の報告及び考察】</p> <p>第3回：生徒指導体制の現状と課題 【講義・学校における実践経験の報告及び考察】</p> <p>第4回：学校内における生徒指導体制構築の事例研究 【ケーススタディ】</p> <p><u>第5回：カウンセリングと協働を活かした生徒指導の理論と実際 (1) 【講義・ワークショップ】</u></p> <p><u>第6回：カウンセリングと協働を活かした生徒指導の理論と実際 (2) 【ロールプレイング】</u></p> <p>第7回：学校危機への組織的対応の実際 【講義・ロールプレイング】</p> <p>第8回：学校組織改善による生徒指導の活性化（1） 【講義・ケーススタディ】</p> <p>第9回：学校組織改善による生徒指導の活性化（2） 【ワークショップ】</p> <p>第10回：児童生徒の問題行動に対応する関係機関の意義と機能 【講義・フィールドワーク】</p> <p>第11回：学校ソーシャルワークと生徒指導 【講義・学校における実践経験の報告及び考察】</p> <p>第12回：福祉的視点からの問題行動へのアプローチの実際 【ケーススタディ】</p> <p>第13回：学校と関係機関による行動連携の理論と実際（1） 【講義・学校における実践経験の報告及び考察】</p>

第14回：学校と関係機関による行動連携の理論と実際(2)
【講義・学校における実践経験の報告及び考察】
第15回：協働的生徒指導体制のモデル構築【シミュレーション】

【授業内容】

第5回：カウンセリングと協働を活かした生徒指導の理論と実際（1）【講義・ワークショップ】

第6回：カウンセリングと協働を活かした生徒指導の理論と実際（2）【ロールプレイング】

第5回として、次の項目について講義を行い、ワークショップで意見交換等を行った。

そして、第6回として第5回の内容を基に、学校の指導体制やいじめへの早期対応についてロールプレイングを交えながら、対応等について考察した。

1 いじめ自殺の事例から

- (1) 事例について
- (2) 事例に基づく関係図について
- (3) 学校の指導体制の課題について
 - ア. 相談された大人が、適切に対応
 - イ. 学校の対応を迅速に
 - ウ. 学校と行政・関係機関との連携を密接に

2 いじめの早期発見・早期対応

- (1) いじめのSOSのサイン
- (2) いじめのサインに気づくには
- (3) いじめへの早期対応
- (4) まとめ

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（奈良教育大学・教育学研究科）

授業科目名	生徒指導・学校教育臨床
教員名（専門分野）	池島 徳大（学校教育臨床・生徒指導）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 9名（平成24年度受講者数）
対象課程・対象学年	学部・修士・ <u>教職大学院</u> 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の機能と基本原理 2. 児童生徒の発達とその理解 3. 問題行動とアセスメント 4. 予防的・開発的視点に立つ生徒指導 5. チーム支援体制の構築 6. <u>学校教育臨床事例研究①いじめへの対応</u> 7. <u>②いじめへの対応</u> 8. ③不登校への対応 9. ④不登校への対応 10. ⑤暴力行為・非行への対応 11. ⑥暴力行為・非行への対応 12. ⑦ADHD, LD など軽度発達障害児童生徒への対応 13. ⑧ADHD, LD など軽度発達障害児童生徒への対応 14. ⑨困った保護者への対応 15. ⑩困った保護者への対応

【授業内容】

(第7回：いじめへの対応)

本授業では、教育現場を経験している現職院生を対象に授業を展開しているため、やや理論的な側面を重視して展開している。いじめに関する理解や対応については、学部で配布するPP資料より、やや精選した資料を提示している。精選した部分は、我が国のいじめの特徴をまとめたものや、今後必要な対応策を国際比較研究からまとめたものなどである。また、具体的ないじめ。もめごと事例（実際に起こった事例）を提示し、その心理分析や対応策を教育現場の体験を生かして討議する場を提供している。

本授業のシラバスには、いじめへの対応は1コマとなっているが、不登校への対応の授業の折りに、いじめが潜んでいるケースを示し、短縮事例法などの演習方法により、深く学ぶ機会を提供している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（奈良教育大学・教育学研究科）

授業科目名	ピア・サポート実践論
教員名（専門分野）	池島 徳大（学校教育臨床・生徒指導）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 8名（平成24年度受講者数）
対象課程・対象学年	学部・修士・ 教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係づくりとオリエンテーション 2. ピア・サポート概論 3. ピア・サポートの導入とその実際 4. 自己理解・他者理解 5. コミュニケーション訓練1（感受性訓練） 6. コミュニケーション訓練2（傾聴スキル） 7. コミュニケーション訓練3（友だちづくりスキル） 8. 問題解決技法1 9. 問題解決技法2 <u>10. いじめなどの対立問題への介入技法1</u> <u>11. いじめなどの対立問題への介入技法2</u> <u>12. いじめなどの対立問題への介入技法3</u> 13. 個人プランニングとゴールの設定 14. ピア・サポートにおける危機への対応（守秘義務と限界設定）とスーパービジョン 15. ピア・サポートの評価と効果の測定

【授業内容】

(第10回～第12回：いじめなどの対立問題への介入技法1～3)

主に演習を導入しているため、3回をきちんと区別できない。そのため、3コマ分として以下に記載する。

ピア・サポートは、「子どもが悩みを抱えたり困ったりしたときに、自分の友だちに相談することが最も多い。(Carr,R.A. 1981)」という事実から導きだされたもので、アメリカ、カナダ、イギリスをはじめ全世界で普及し始めている。本学では教職大学院開設時から、開講科目として開設した。

近年、いじめの国際比較研究の結果から、いじめ問題の解決には子ども同士の成員意識を高め、また集団の一員として自浄作用能力を高めることが必須であるとの指摘がなされるようになり、ますますピア・サポートの重要性が増してきている。

従って、本授業の根底には、いじめ予防の視点が常にあり、思いやりのある学校、だれもが行きたくなる学校づくりを目指している。そのため、何よりも良質な人間関係の育成及び良質なコミュニケーションの獲得がポイントとなり、その視点で進めている。

授業者は、次のスキルを教師が身につけるべきスキルとして提示し、演習等でスキルの獲得を図っている。そのスキルとは、①友だちづくりスキル、②傾聴スキル、③いじめ・もめごとなどの「対立解消スキル」の3つである。

特に、授業者は、いじめなどのもめごと問題の解決を図るスキルとして、ピア・メディエーションスキル(仲間による調停)を獲得スキルとして授業を展開しているが、その方法等について解説した上で、進めた。

具体的には、現職の教員とストレート院生と一緒に学んでいる利点を生かし、日常的に学校で起こる友人とのトラブル問題について、ロールプレイングを用いて、多様な視点から介入方法の検討を行っている。

いじめに関して使用するテキストは、「池島徳大監修・共著 DVD付き ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法！ー指導用ビデオと指導案ですぐできるピア・メディエーションとクラスづくりーほんの森出版 2011」である。本書には、さまざまなワークが準備されており、また、DVDには、メディエーションのモデルが示されているので、参考となっている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科）

授業科目名	生徒指導・教育相談に関するケースカンファレンス
教員名（専門分野）	佐藤亨(臨床心理学), 小坂浩嗣(臨床心理学), 阿形恒秀(臨床教育学) 末内佳代(学校臨床心理学)
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 27名
対象課程・対象学年	学部・修士・ <input checked="" type="checkbox"/> 教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に 下線)	<p>第1回 事例研究の進め方について オリエンテーションとして、事例研究を進める上で理解しておくべき留意事項等を学ぶ。</p> <p>第2回 事例研究に関する基礎的事項について 事例研究を進める上で、理解しておくべき意義、趣旨、理論的背景等を学ぶ。</p> <p><u>第3回～第14回 事例研究</u> <u>受講者1名による発表事例に関して、参加者全員で討議を行い、教員がコメンテーターとなって、事例に関する理解や対応方法について考えを深める。</u></p> <p>※ 事例として、いじめ問題そのものや不登校の背景としていじめの問題が取り上げられることがあり、そこででの討議を通して理解を深めさせている。</p> <p>第15回 まとめ</p>

【授業内容】

本授業は、受講者（現職教員である大学院生）全員が、自らが学校現場で経験した様々な事例について発表を行い、その事例に関して参加者全員で討議を行い、教員もコメンテーターとしてそこに参加することで、事例やそこにおける教員の関わりについて多角的に検討し、生徒指導・教育相談に関連した事例を見立てる力や対応力の向上を図ると同時に、教師としての自らのあり方について省察させることを目的としている。

そのため、特別にいじめに関する講義等を行っているわけではないが、事例の中にいじめ問題そのものや、放っておけばいじめに発展する可能性のある人間関係の問題、あるいは不登校事例を扱った際に背景としていじめの問題が取り上げられることが少なくなく、その問題に関する討議を通して、いじめ問題に関する対応力や教師としてのあり方について、考えを深めさせるように指導を行っている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科）

授業科目名	子どもの内面理解
教員名（専門分野）	末内 佳代（学校臨床心理学），小坂 浩嗣（臨床心理学） 阿形 恒秀（臨床教育学），佐藤 亨（臨床心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 38名
対象課程・対象学年	学部・修士・ <input checked="" type="checkbox"/> 教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に 下線）	第1回～第4回 小坂浩嗣 担当 第1回 生徒指導と教育相談 第2回 子ども理解の姿勢と態度 第3回 子どもの問題への理解 第4回 子どもの問題と内面理解 第5回～第8回 末内佳代 担当 第5回 子どもの内面理解と教師のかかわり 第6回 学ぶことの楽しさ1 第7回 学ぶことの楽しさ2 第8回 見守ること，広い視野と異なる視点，子どもの可能性 第9回～第11回 阿形恒秀 担当 第9回 優しくて厳しいかかわり1 第10回 優しくて厳しいかかわり2 第11回 優しくて厳しいかかわり3 第12回～第15回 佐藤 亨 担当 第12回 非行と関わる現場 <u>第13回 非行少年の抱える問題</u> <u>第14回 問題をどう見立てるか？</u> 第15回 非行少年とどうかかわるか？

【授業内容】

教師が生徒指導や教育相談を行なう上で、実際に役に立つ、基盤となる考え方や態度を理解できるようになることがこの授業の目的である。子どもとかかわることの楽しさと難しさ、子どもと関わる際に配慮すべきことや子どもを見る視点、などについて考えを深めていくことを目的とする。

その中で、いじめ問題に関して特別に単元を用意しているわけではないが、非行少年の抱える問題の単元の中で、いじめの心理についても非行少年と共通する面といじめ特有の面について説明している。また、問題をどう見立てるかの単元においては、架空の事例についての討議を行わせ、事例理解の力の向上を図っているが、今年度はいじめの事例を扱うことで、いじめを把握する力や対応力の向上を目指した。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科）

授業科目名	生徒指導・進路指導の基礎的理解と実践
教員名（専門分野）	葛上 秀文(教育社会学), 端村 達也(小学校教育実践)
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 11名
対象課程・対象学年	学部・修士・ <input checked="" type="checkbox"/> 教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<p>1 生徒指導の概説 この授業の概要を説明し、生徒指導の現状について考える。</p> <p>2～5 一般的な生徒指導上の対応(基本的なポイント、事例検討、ロールプレイ) 学校現場で遭遇する様々な生徒指導上の課題への対応について、基本的なポイントを説明した後、様々な事例への対応をグループで検討し、その中から、実際にロールプレイを行う。</p> <p>6～9 <u>いじめの対応(基本的なポイント、事例検討、ロールプレイ)</u> <u>いじめへの対応について、基本的なポイントを説明した後、様々な事例への対応をグループで検討し、その中から、実際にロールプレイを行う。</u></p> <p>10～13 保護者の対応(基本的なポイント、事例検討、ロールプレイ) 保護者の対応について、基本的なポイントを説明した後、様々な事例への対応をグループで検討し、その中から、実際にロールプレイを行う。</p> <p>14 キャリア教育について 進路指導の新たな展開として注目されるキャリア教育について検討する。</p> <p>15 まとめ この授業で学んだことを振り返り、後期の授業につなげる。 履修上の注意事項 積極的に議論に参加し、生と死王の課題について、主体的に考えることを希望する。</p>

【授業内容】

次のような事例を取り上げ、この問題が起きている構造をグループで議論し、教師として、この状況にどのように対応するか、ロールプレイを实践し、その様子をビデオで撮影した映像をもとに検討を加える。

事例1 小学5年

A君とB君がけんかをしている。まわりはそれをはやしたてている。

B君が読んでいる本をA君がうらやましそうにみていたので、B君が「貸してやる」といって、本をA君に放り投げた。A君は「いない」といって、本をB君に投げ返した。B君が「何でや」といって、怒りだし、A君も「いないものはいない」といってA君に突進した。このグループは普段から仲がよいが、B君がリーダー的なところがあり、他の子に対して、命令口調で話すことが多い。そのことを普段からいやに思っているが、怖いこともあり、従っているところがあった。

履修者は、1年半にわたり、実習で小学校に行く。そこで、問題状況に対応するための基本的なポイントを理解し、ロールプレイで実際に実践化することを行う。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科）

授業科目名	学校臨床実践事例研究																																
教員名（専門分野）	阿形 恒秀（臨床教育学），小坂 浩嗣（臨床心理学） 末内 佳代（学校臨床心理学），佐藤 亨（臨床心理学）																																
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）																																
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目																																
単位数・受講者数	2単位 ・ 6名																																
対象課程・対象学年	学部・修士・ <u>教職大学院</u> 1年生対象																																
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<table border="0"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生徒指導における協働の検討</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アセスメント検討① （1年次、学校アセスメントについての集団討議）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td><u>アセスメント検討②</u></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>アセスメント検討③</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アセスメント検討④</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>実践事例検討① （2年次、学校課題 FW または異校種 FW についての集団討議）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td><u>実践事例検討②</u></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>実践事例検討③</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>実践事例検討④</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ケーススタディ① （教員や修了生の実践事例発表についての集団討議）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ケーススタディ②</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ケーススタディ③</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ケーススタディ④</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>集団討議による総括</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	オリエンテーション	2	生徒指導における協働の検討	3	アセスメント検討① （1年次、学校アセスメントについての集団討議）	4	<u>アセスメント検討②</u>	5	アセスメント検討③	6	アセスメント検討④	7	実践事例検討① （2年次、学校課題 FW または異校種 FW についての集団討議）	8	<u>実践事例検討②</u>	9	実践事例検討③	10	実践事例検討④	11	ケーススタディ① （教員や修了生の実践事例発表についての集団討議）	12	ケーススタディ②	13	ケーススタディ③	14	ケーススタディ④	15	集団討議による総括
回	内容																																
1	オリエンテーション																																
2	生徒指導における協働の検討																																
3	アセスメント検討① （1年次、学校アセスメントについての集団討議）																																
4	<u>アセスメント検討②</u>																																
5	アセスメント検討③																																
6	アセスメント検討④																																
7	実践事例検討① （2年次、学校課題 FW または異校種 FW についての集団討議）																																
8	<u>実践事例検討②</u>																																
9	実践事例検討③																																
10	実践事例検討④																																
11	ケーススタディ① （教員や修了生の実践事例発表についての集団討議）																																
12	ケーススタディ②																																
13	ケーススタディ③																																
14	ケーススタディ④																																
15	集団討議による総括																																

【授業内容】

(第4回：アセスメント検討)

「アセスメント検討」では、1年次の「学校アセスメント」の取組の報告についての集団討議を行っているが、この授業では、1年次院生からの、深刻ではないがいじめが散見される学校状況についての報告を受けて、その解決に向けた取組みの方向性について、ディスカッションを行った。

(第8回：実践事例検討)

「実践事例検討」では、2年次の「学校課題フィールドワーク」「異校種フィールドワーク」の取組の報告についての集団討議を行っているが、この授業では、2年次院生から置籍校での「学校課題フィールドワーク」の中で直面した児童間の人間関係の軋轢・対立の問題についての報告を受けて、その解決に向けた取組みの方向性について、ディスカッションを行った。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科）

授業科目名	外部機関との連携
教員名（専門分野）	末内 佳代（学校臨床心理学） 佐藤 亨（臨床心理学） 阿形 恒秀（臨床教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 16名
対象課程・対象学年	学部・修士・ <u>教職大学院</u> 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>第1回：オリエンテーション [本授業の内容や目的を理解する。これまで学校現場で利用した外部機関との連携に関する実践を振り返り問題意識をもつ]</p> <p>第2回：事前準備 [受講者が分担して作成した見学先の資料を説明する]</p> <p>第3回：見学実習1：発達障害の生徒を対象とした特別支援学校</p> <p>第4回：シェアリング・事前準備 [①先週の見学実習で感じたこと，学んだこと，学校で活かせることを話し合い，分かち合うことにより，連携の在り方を考える。②受講者が分担して作成した見学先の資料を説明する]</p> <p><u>第5回：見学実習2：適応指導設推進施設</u></p> <p><u>第6回：シェアリング・事前準備</u></p> <p>第7回：見学実習3：こども女性相談センター</p> <p>第8回：シェアリング・事前準備</p> <p>第9回：見学実習4：少年鑑別所</p> <p>第10回：シェアリング・事前準備</p> <p>第11回：見学実習5：児童自立支援施設</p> <p>第12回：シェアリング・事前準備</p> <p>第13回：見学実習6：家庭裁判所</p> <p>第14回：シェアリング</p> <p>第15回：まとめ[これまでの授業の振り返りをする]</p> <p>注：本授業は事前準備・見学実習・シェアリングの3つの活動が1セットになっている。</p>

【授業内容】

(第5回：見学実習2：適応指導設推進施設，第6回シェアリング)

いじめに関しては，見学実習における，関係機関の職員との質疑応答の中でいじめに関する対応が話し合われた。いじめが原因で不登校となっている場合等には，いじめを絶対に許さない毅然とした対応をとることはもとより，不登校児童生徒に対する居場所として，適応指導推進施設が考えられることが話し合われた。

また，シェアリングでは現職教員である院生たちが学校現場での対応を振り返り，関係機関との連携も視野に入れた取組みについて，ディスカッションを行った。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科）

授業科目名	生徒指導・教育相談の実践と課題
教員名（専門分野）	小坂 浩嗣（臨床心理学），阿形 恒秀（臨床教育学） 佐藤 亨（臨床心理学），末内 佳代（学校臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 6名
対象課程・対象学年	学部・修士・ 教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>第1回：教育指導・援助実践の事例検討について（講義：教育指導・援助実践を分析・検討する方法について、アセスメントやケースフォーミュレーション等の基本的内容や手順，留意点などを学ぶ）</p> <p>第2・3回：教育指導・援助実践の事例発表について討議する。（演習：不登校に関する事例について、アセスメント、教育指導・援助の過程・内容、方法の在り方を明らかにしていく）</p> <p><u>第4・5回：教育指導・援助実践の事例発表について討議する。（演習：いじめに関する事例について、アセスメント、教育指導・援助の過程・内容、方法の在り方を明らかにしていく）</u></p> <p>第6・7回：教育指導・援助実践の事例発表について討議する。（演習：非行に関する事例について、アセスメント、教育指導・援助の過程・内容、方法の在り方を明らかにしていく）</p> <p>第8・9回：教育指導・援助実践の事例発表について討議する。（演習：チックや場面緘黙等の神経症状に関する事例について、アセスメント、教育指導・援助の過程・内容、方法の在り方を明らかにしていく）</p> <p>第10・11回：教育指導・援助実践の事例発表について討議する。（演習：精神障害に関する事例について、アセスメント、教育指導・援助の過程・内容、方法の在り方を明らかにしていく）</p> <p>第12・13回：教育指導・援助実践の事例発表について討議する。（演習：発達障害やその他の事例について、アセスメント、教育指導・援助の過程・内容、方法の在り方を明らかにしていく）</p> <p>第14回：教育指導・援助実践の課題（演習：受講者の教育指導・援助実践に関する検討内容を振り返り，教育現場で求められている実践上の課題をテーマとして設定し，ブレイン・ストーミングにより討議する）</p> <p>第15回：教育指導・援助実践の展望（演習：前時で明確化された教育現場で求められている実践上の課題をもとに，ブレイン・ストーミングにより今後の教育指導・援助実践のあり方について討議する）</p>

【授業内容】

(第4・5回：教育指導・援助実践の事例発表について討議する。)

- 授業の概要：いじめに関する事例発表をもとに，集団討議によりアセスメント，教育指導・援助の過程・内容，方法の在り方を明らかにしていく。
- 授業展開のポイント
 - ① 受講生全員が学校現場等で経験した生徒指導上の事例や教育実践事例を発表します。
 - ② 受講者を学校種と所属コースを考慮して配分した3グループに編成します。
 - ③ 授業担当教員も1～2名ずつ3グループに編成して，授業回でシャッフルします。
 - ④ グループごとに1授業回で1受講者が発表した事例について集団討議します。
 - ⑤ 発表事例に関して，問題事象の理解，アセスメント，指導援助法などについて多角的見地から検討します。
- 授業での留意点
 - ① 司会者は，原則前回の発表者が担当するようにして下さい。司会者は発表者と事前打ち合わせした上で進行して下さい。
 - ② 発表者と司会者の他に，討議内容を記録する記録者も受講者で各授業回に分担して下さい。記録者は授業終了後に記録を発表者に渡してあげて下さい。
 - ③ 守秘義務にしたがい配付資料の全回収を徹底して下さい。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	行動連携のための教育臨床心理学
教員名（専門分野）	中島 義実（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	専門職学位課程（教職大学院）のコース別科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 5名
対象課程・対象学年	教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>1 オリエンテーション 本授業の目標、概要、期待する学習方法等について説明する。</p> <p>2 学校教育と臨床心理学(1) 学校教育と臨床心理学の関係を、歴史的視点を含めて、概観する。</p> <p>3 学校教育と臨床心理学(2) 臨床心理学の活用方法を理解する。</p> <p>4 心と行動の問題(1) 心と行動の問題の捉え方を整理する。</p> <p>5 心と行動の問題(2) 具体的な対応方法を事例により理解する。</p> <p>6 心と行動の問題(3) 学校教育や家庭教育での事例をもとに、発達段階による相違点を知る。</p> <p>7 多様な臨床心理学的アプローチ(1) 種々のアプローチを、レポートをもとに概観する。</p> <p>8 多様な臨床心理学的アプローチ(2) 試行カウンセリングにより、特定のアプローチ（その1）を体験する。</p> <p>9 多様な臨床心理学的アプローチ(3) 特定のアプローチ（その2）を体験する。</p> <p>10 多様な臨床心理学的アプローチ(4) 特定のアプローチ（その3）を体験する。</p> <p><u>11 学校における児童・生徒の問題(1) 臨床心理学の観点からの問題行動の捉え方を学ぶ。</u></p> <p><u>12 学校における児童・生徒の問題(2) 事例研究から、問題解決の視点を得る。</u></p> <p>13 臨床心理学の専門家と専門機関(1) 専門機関の種類や特徴を学ぶ。</p> <p>14 臨床心理学の専門家と専門機関(2) 専門機関との連携の手順をシミュレートする。</p> <p>15 授業全体のまとめ</p>

【授業内容】

授業全体の目的は、臨床心理学の主要理論や概念、そしてそれらにもとづく各種臨床心理学的手法の概略を理解し、学校に配置されるスクールカウンセラーや、外部資源としての各種相談室あるいは相談機関などの専門家と有効に情報・行動連携ができるようになることである。

受講生の学習ニーズを何よりも中心にすえるため、また、可能な限り事例に沿った学習を行うため、授業計画を必ずこの順序で行うとは限らない。いくつもの事例について様々な角度から検討した結果、計画に挙げられた事項を網羅している、という形態をとる。

その中で、当該箇所において、いじめに関する事例を取り上げ、現場における実践の位置から見えてくるものと、臨床心理学的見地から見えてくるものとをクロスオーバーさせつつ学びを深めることとしている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導の理論と実践A
教員名（専門分野）	高松 勝也 （教育相談）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	専門職学位過程
単位数・受講者数	2単位 ・ 9名
対象課程・対象学年	学部・修士・ <u>教職大学院</u> M1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回：オリエンテーション、児童生徒理解の理論(1)</p> <p>第2回：児童生徒理解の理論(2)</p> <p>第3回：<u>児童生徒理解の方法(1)</u></p> <p>第4回：児童生徒理解の方法(2)</p> <p>第5回：児童生徒理解の理論(3)</p> <p>第6回：積極的生徒指導の概要</p> <p>第7回：積極的生徒指導の実際(1)</p> <p>第8回：積極的生徒指導の実際(2)</p> <p>第9回：積極的生徒指導の実際(3)</p> <p>第10回：問題行動への対応の生徒指導の概要</p> <p>第11回：問題行動への対応の生徒指導の実際</p> <p>第12回：関係機関との連携</p> <p>第13回：<u>福岡県の生徒指導の現状と取組</u></p> <p>第14回：実践上の諸問題・生徒指導の評価</p> <p>第15回：レポート提出と授業全体のまとめ</p>

【授業内容】

（第 3 回：児童生徒理解の方法(1)）

いじめの兆候とはどのようなものか具体的事例を元に討議した。その過程で、いじめを見抜く視点を検討していった。また、いじめアンケートの実施上の留意点や実施後の対応方法などロールプレイを活用して体験的に学んだ。

（第 13 回：福岡県の生徒指導の現状と取組）

福岡県教育庁の指導主事に来ていただき、福岡県の不登校、いじめの状況及び対応方法について、データ等をもとに具体的事例を用いて講話を頂いた。